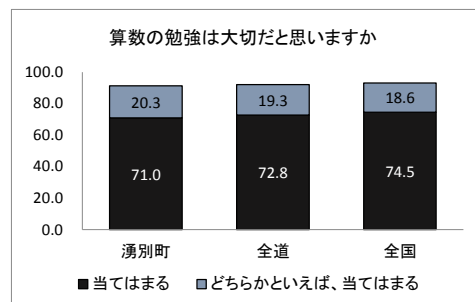
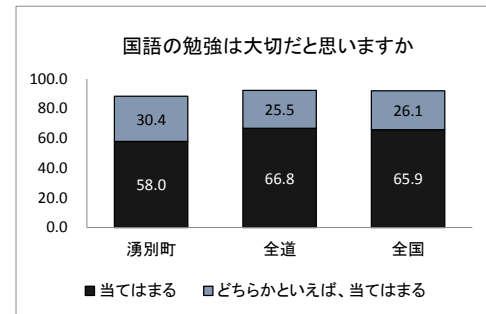
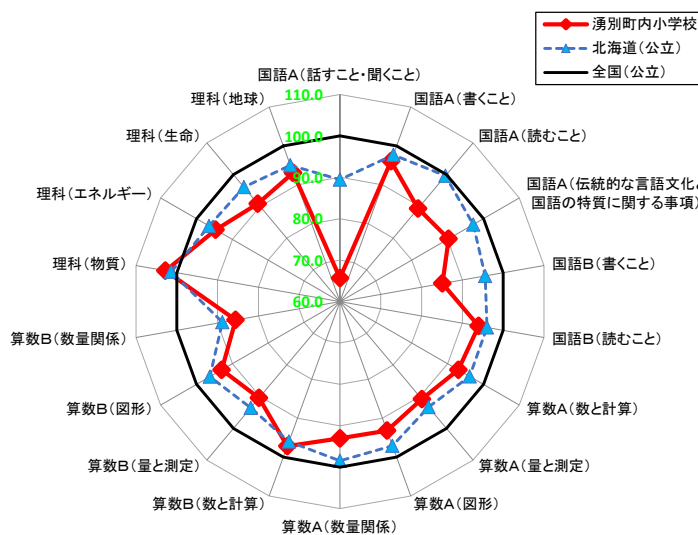


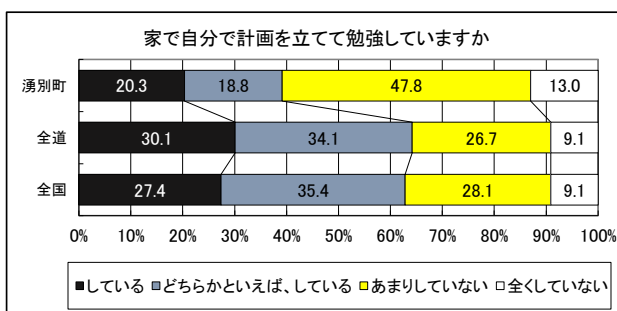
■湧別町内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6、児童数:69名)

【教科全体の状況】

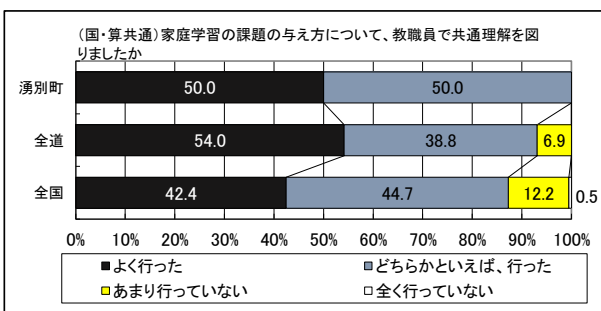
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは「書くこと」、国語Bでは「読むこと」領域の平均正答率が全道とほぼ同様になっている。 ○ 算数Bでは、「数と計算」領域で全道を上回っている。 ○ 理科では、「物質」の領域で、全国を上回っている。	○ 各学校において、家庭学習の与え方について、教職員で共通理解を図った取組を推進したことにより、「国語・算数の勉強が大切だと思う」と回答した児童の割合が高くなっていると考えられる。一方で、「家で自分で計画を立てて勉強していますか」の問いに、「している、どちらかといえばしている」と回答した児童の割合が、全道・全国よりも下回っていることから、家庭と連携を図った学習習慣確立の取組を充実させる必要がある。
児童質問紙	○ 「国語の勉強が大切だと思いますか」「算数の勉強が大切だと思いますか」の質問に、「当てはまる・どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合が全国・全道とほぼ同様になっている。	
学校質問紙	○ 「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図りましたか」の質問に、「よく行った、どちらかといえば行った」と回答した学校が、全国を上回っている。	

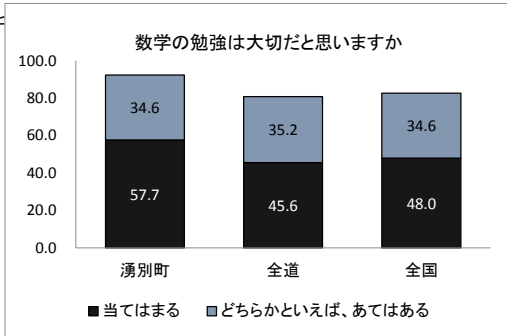
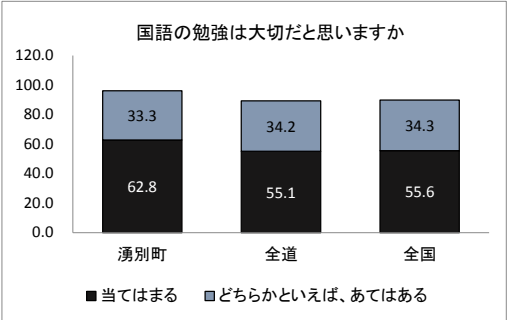
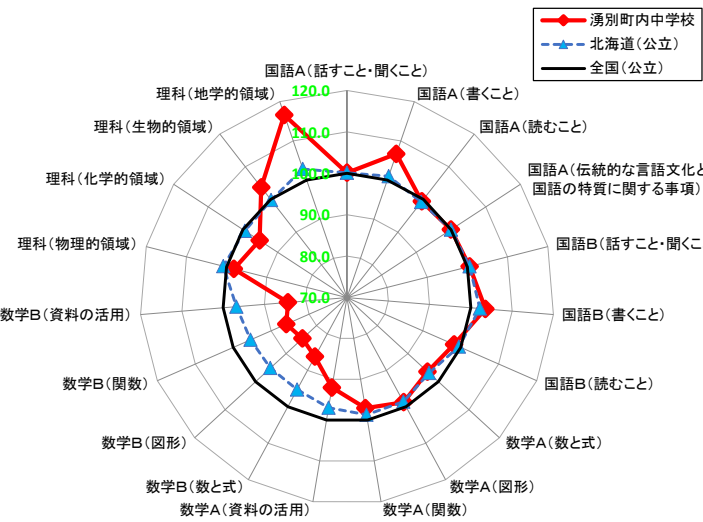
【湧別町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の理解の程度に応じた習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチング、学習サポートの取組
- ◎ 各学校における学習向上改善プログラムの作成
- ◎ 中高一貫教育の充実
- ◎ 発達障がい支援モデル事業における校内研修プログラムの作成

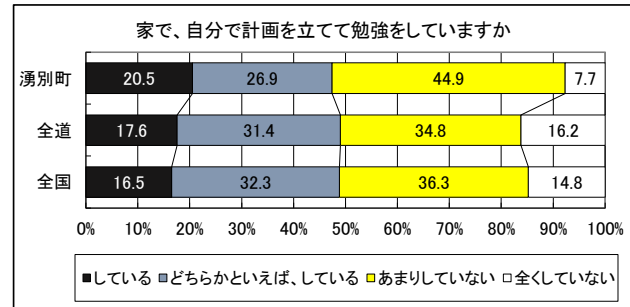
■湧別町内中学校の状況及び学力向上策(学校数:3、生徒数:78名)

【教科全体の状況】

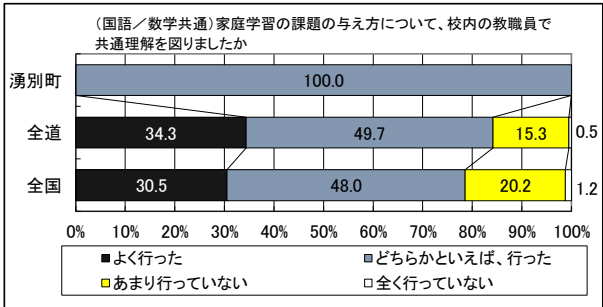
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 (市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは「話すこと、聞くこと」「書くこと」国語Bでは「書くこと」で全国を上回っている。 ○ 数学では、A「図形」で全国とほぼ同様である。空間図形の読み取りや図形の証明に関する問題で全国を上回っている。 ○ 理科では、「生物的領域」「地学的領域」で、全国を上回っている。	○ 各学校が家庭学習の与え方について教職員で共通理解を図り、家庭での学習方法等を具体的に伝えることにより、家庭学習の習慣が身に付いてきており、このことが漢字の読み書きや計算などの基礎的・基本的な知識・技能の定着につながっていると考えられる。
生徒質問紙	○ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問に「している」と回答した生徒が、全国・全道を上回っている。	
学校質問紙	○ 「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図りましたか」の質問に、「よく行った、どちらかといえば行った」と回答した学校が、全国を上回っている。	

【湧別町の学力向上策】

- ◎ 児童生徒の理解の程度に応じた習熟度別指導、少人数指導、チーム・ティーチング、学習サポートの取組
- ◎ 各学校における学習向上改善プログラムの作成
- ◎ 中高一貫教育の充実
- ◎ 発達障がい支援モデル事業における校内研修プログラムの作成